

最初は、どのような形の授業を作るべきなのかが分からなかったです。一回目の授業はYMCAの先生のまねをして、漢字を教えました。先生の授業は簡単そうに見えましたが、自分でするととても難しかったです。二回目は読解問題の授業で、横溝先生のアドバイスで、目標から考えると分かりやすいと気付きました。例えば、文章を音読する前には、まず内容を理解しなければなりません。内容を理解するには、新出単語の理解が必要です。この反対を行えば、内容理解の確認のための練習問題した後で、音読を練習するという流れが見えてきます。こういう風に授業の形を決めていくこと、それをバックワード・デザインと呼ぶことを学びました。また、ティーチャートークにも気を付けるようになりました。最初は、「この文だったらわかりにくいかもしれない」という考え方がなくて、全部長い文章で説明しようとしていましたが、三回の実習でずいぶん気付けるようになりました。

「教案作成」では、他の人より作る回数が少なく、戸惑いが多かったです。一番苦手だったのは、活動時間の予想でした。そして、余りの時間で何をしたらいいかも、毎回悩みました。授業で使う言葉を全部教案に書いて、注意点もたくさん考えるといいと思いました。最初の頃より活動時間を予想することができるようになり、とても嬉しく思います。

「教材の準備」で、最初は字の大きさなどを気にしすぎて、使いやすさをまでは考えていませんでした。そして、準備というのはただ作るだけでなく、それをいかにスムーズに使えるかも考えないといけないことが分かりました。最初の頃より、教材の作り方と使い方がよくなったと思います。具体的には、字の大きさと磁石の量が分かるようになったこと、使いやすくするために順番に並べることなどです。準備・使用する教材の量が多くて苦しかったですが、YMCAの実習授業のDVDを見返すと、自分の成長が分かって嬉しかったです。最初の授業ではとても緊張していたため、フラッシュカードの使い方がよくありませんでした。緊張だけでなく、練習不足だったのも原因でした。そして、緊張で声小さく、アイコンタクトもほぼなかったです。立ち位置に注意しましたが、見にくい学生がいたので、もっと考えないといけないことが分かりました。漢字の訓読みと音読みをはっきり言えなかったことにも気づきました。そして一番ダメだったのは、時間が少し余ったことです。せっかく時間が余った場合に行うことも考えていたのに、それをしなかったことはもったいないと感じました。

二回目の授業は練習問題のところだったのですが、教案を横溝先生に褒められたので、とても嬉しかったです。一回目に比べて、自分の声や表情などが明るくなりました。「教科書を開けてください」などの指示を出すときも言葉だけでなく、ジェスチャーを使えました。練習問題を解く時間が思ったより長くかかり、準備したものを全部終わらなかったのですが、その時に、できない内容を切り捨てて、丁度いい時間に授業を終わらせることができました。時間の使い方はうまくなったと思います。反省会でも横溝先生に褒められたので、嬉しかったです。読解問題を行う時の、私の大きな課題はイントネーションでした。いくつかのおかしなイントネーションを、横溝先生に教えてもらいました。家で何度も練習しましたが、本番で2、3回間違ったのが悔しかったです。リハーサルの時よりは少なくなったので

すが。これからもイントネーションに気を付けて、たくさん練習したいと思いました。一回目と二回目の授業を踏まえて、最後の授業では緊張しなくなり、きちんと学生とやり取りができたと感じました。質問をした時も、きちんと学習者とアイコンタクトを取れました。

ちょっと残念に感じたのは、時間が少なくて慌てていた点です。予想外の答え（それも正解でした）が出た時の私のリアクションが冷たく、「自分の答えが間違えている」と学習者に思わせてしまいました。三回の実習で、自分は堂々と授業することができるようになりました。まだまだ完璧ではないけれども、もっといい先生になれそうな気がしています。

今回の実習では漢字や練習問題だけが担当だったので、次は新しい文法を導入する練習等も担当したいです。自分の一番苦手な「演技」も磨きたいと思っています。将来は日本語の先生になりたいと本当に思っていますので、自分の知識を増やし教え方を身につけ続けなければなりません。知識については、いっぱい本を読んで、学生に難しい問題を聞かれても答えるようになりたいです。そして、教えるときには、面白くてわかりやすい授業を作りたいです。学生に退屈と感じさせないように頑張りたいです。仕事で経験を積み重ね、他の先生のいいところを学んで、プロの日本語教師になりたいです。最終的には、日本語を教えるだけでなく、日本語教師を育てることができる人になりたいです。ベテランの先生になるまでの道は長いかもしれませんが、あきらめずに頑張りたいと思っています。